**2023年度　一般社団法人日本臨床発達心理士会　第3回理事会　議事録概要**

日　時：2024年2月23日（金）13：00～16：00

場　所：（株）国際文献社　パブリッシングセンター8階会議室

　　　（〒162-0801　東京都新宿区山吹町332-6）

出席者：理 事 長　近藤清美

副理事長　東　敦子、尾崎康子

専務理事　西山剛司

常務理事　石川由美子、鎌田次郎、西村健一

理　　事　岡田　恵、佐竹真次、趙　愛蓮、冨永由紀子、堀内ゆかり、本郷美奈子、

武藤百合、山瀬道代

監　　事　滝澤真毅

欠席者：理　　事　後藤隆章、米澤好史

監　　事　吉田ゆり

オブザーバー出席者

　　　　事務局次長：佐藤　健、武田裕子

出席者を確認し、定款第36条に定める定足数を満たしたため、近藤理事長が議長となり、2023年度第3回理事会の開会を宣言した。事務局次長が初参加となったため、全員自己紹介を行った。

**【審議事項】**

第1号議案　2024年度活動計画

　近藤理事長より資料に基づき説明があった。

　重点課題として、「士会組織の確立」、「士会の社会的認知度を高め、社会的貢献を行う」、「臨床発達心理士資格取得希望者の拡大と支援」が挙げられ、各セクションの活動方針についても説明がなされた。ウェブサイトも充実してきているとの紹介があった。

　事務局次長を公募して立候補された5名を選任したとの報告があった。一部の役員だけでなく、広く士会活動にかかわっていただき、世代交代を図っていきたいとの意見が述べられた。

〇全国大会について

　全国大会運営委員長の西村理事より全国大会について説明があった。2024年度長野大会の一号通信を発送した。久しぶりの対面開催で、対面ならではの企画を多く用意している。言い出しっぺグループの情報交換会を企画しており、会員同士の交流の場を多く作っていきたいとの抱負が述べられた。長野大会は第20回の節目の大会なので、第1回大会からの論文集を集めて、推移をまとめて発表する企画がある。

　また、2025年度埼玉大会も準備に着手しているとの報告があった。

〇研修会について

　徐々に申請書の手続きなども慣れてスムーズになってきたので、来年度からは内容に注力していきたい。どう特長を出していくかが重要だと考えているとの意見が述べられた。

〇「臨床発達心理実践研究」について

「臨床発達心理実践研究」の発行と充実について、編集委員長の石川理事より説明があった。隔月で編集委員会を開催し、7月と12月に年2回発刊している。全国大会での「実践研究発表」を量的・質的に充実させ、「臨床発達心理実践研究」への投稿につなげたいと考えている。

〇広報

臨床発達心理士の認知度を高め、臨床発達心理士資格取得者を増やすため、パンフレットやポスターを制作して配布したとの報告があった。

さらに広報委員長の趙理事より詳細な活動報告があった。SNSはX、Facebook、Instagramを活用して情報を発信している。

〇職能・職域拡大

会員の求人実態等の調査を5年ごとに行っており、次回は2025年度に実施予定である。2020年度のアンケート結果を後日士会ウェブサイトに掲載する。

また、よろず相談室について各委員会委員長と協議し、制度を確立して利用を促進していきたいと考えているとの説明が鎌田理事よりあった。

〇災害支援

災害で被災した会員への支援の仕組みを確立する必要があり、執行部が被災して対応できない場合の対処方法についても確認しておく必要がある。

令和6年能登半島地震の発生を受け、災害支援委員会と北陸支部が連携して会員の安否確認など行い、被災した会員はいないことを確認した。

臨床発達心理士認定運営機構と合同で災害支援研修会を3月9日に開催予定で、災害支援委員長の山瀬理事より詳細な説明があった。

職能団体である本会としては、会員へのサポートが最優先であり、まず会員の安全を確認し、情報収集を行って現地のニーズを把握し、会員自身が被災して仕事ができないときサポートできる体制を予め考えておくことが重要である。

〇危機支援

社会的危機にかかわるような特別な支援ニーズを持つ人々に支援をしている会員への支援を行う。危機支援委員会より「新しい臨床発達心理士の専門性の創出と活躍支援―危機支援とトラウマ・インフォームドケア」プロジェクトを発足させたいとの提案があり、承認された。今後、研修会を行い、トラウマ・インフォームドケア（TIC）を身につけた人材の養成と活躍の場の創出を推進する。

臨床発達心理士としてのアプローチを明確に示す必要があるのではないかとの意見が出た。

〇支部活動

　支部の自治を尊重し、その地域での臨床発達心理士の実態や発達心理学的ニーズに基づいた多彩な活動を支援する。

〇倫理的活動

　本会倫理綱領の周知のために学習機会を設定し、倫理に関する研修会を実施する。会員内外からの倫理に関する相談を受け付け、その解決のための活動を行う。

　以上のような2024年度活動計画について説明があり、満場一致で承認された。

第2号議案　2024年度予算

　西山理事より資料に基づき2024年度予算（案）について説明があった。

第3号議案　実践研究誌編集委員会規程改定（継続審議）

　前回理事会で継続審議となっていた点について、編集委員会で再検討し、石川理事より再度提案がなされ審議の結果、満場一致で原案通り承認された。

第4号議案　テーマ研究会申請と活動計画・予算

　以下の2件のテーマ別研究会の申請があり、満場一致で承認された。

1. 自閉スペクトラム症（ASD）への発達論的アプローチ研究会（代表者：堀内ゆかり）
2. 災害支援研究会（代表者：山瀬道代）

第5号議案　リーフレット

　趙理事より、本会を紹介するA4判・3つ折りのリーフレットを作成予定との説明があり、案が配布された。一般の事業所や関係機関等、一般の方に届くように配布する予定である。

第6号議案　新委員の承認

　尾崎理事より研修委員会の新委員として下記の3名を選任したいとの提案があり、満場一致で承認された。

1.生涯発達部門【児童・青年期】委員：河内哲也先生

2.スペシャルニーズ部門委員：若井広太郎先生

3.基礎的研修部門委員：加藤健生先生

　石川理事より、編集委員も退任に伴い、代わりの方を新任する予定との報告があった。

第7号議案　賛助会員の入会

　以下の法人より賛助会員の入会申し込みがあったとの報告があり、賛助会員規程第2条に則り審議した。

○社会福祉法人明神保育園

代表理事が先般の栃木支部研修会に参加された方で、準会員と間違えた可能性が指摘された。賛助会員として申し込んだと確認された場合は、承認することとした。

**【報告事項】**

第1号報告　前回理事会以降の執行部の活動報告

西山理事より、前回理事会以降の執行部の活動状況について資料に基づき報告があった。

第2号報告　前回理事会以降の研修会の実施

西山理事より、前回理事会以降の研修会の実施状況について資料に基づき報告があった。研修会参加者数が減少傾向との報告がなされた。

第3号報告　事務局次長体制

　西山理事より、事務局次長を会員に募ったところ、以下の5名から応募があり、全員に就任を依頼し、役割分担を行ったとの報告があった。

　堀江まゆみ 支援・企画関係担当

　趙　愛蓮 広報関係担当

　麻生奈央子 研究・実践関係担当

　佐藤　健 研修関係担当

　武田　裕子 組織運営関係担当

第4号報告　「つながりグループ」

　過日「言い出しっぺ」を募ったところ、11名から13のテーマが集まったとの報告があり、「言い出しっぺ」の氏名・支部・テーマ・参加者数の一覧を確認した。8月の全国大会で情報交換会を実施予定である。

第5号報告　各委員会からの報告

1. 会計委員会

2024年2月5日に会計委員会を開催し、2024年度予算について検討し、本理事会に提案した。

1. 危機支援委員会

第1号議案の2024年度活動計画で説明があった通り、「新しい臨床発達心理士の専門性の創出と活躍支援―危機支援とトラウマ・インフォームドケア」プロジェクトを発足させるとの報告があった。2024年9月28日に全国対象のセミナー「発達支援におけるトラウマ・インフォームドケアとその実践（仮）」を開催予定である。

第6号報告　研修担当の方針

　全国研修会の研修体系について、資料に基づき尾崎理事より説明があった。基礎的研修、共通研修、一般研修（研修委員会主催、その他委員会主催、テーマ別研究会主催）、専門講座について、それぞれ説明がなされた。

研修委員会以外の各委員会で研修会を企画されたときは尾崎理事に報告し、研修会マニュアルに則って手続きを行うよう依頼があった。機構の申請書等が改定される予定なので、それに合わせてマニュアルも2024年度改訂版を作成する予定。

第7号報告　令和6年能登半島地震に関する活動

　日本臨床発達心理士会・臨床発達心理士認定運営機構合同本部主催、日本臨床発達心理士会北陸支部共催にて、資格更新全国研修会を下記の要領で開催する。

・タイトル：能登半島地震における、被災者のメンタルヘルスケアと支援者のセルフケアについて

・講師：足立智昭（宮城学院女子大学）

・日時：2024年3月9日（土）13:00～16:00

・形式：対面とライブオンライン配信

　　　　対面会場　ITビジネス武蔵（金沢市）

・定員：対面60名、オンライン60名

・参加費：無料

第8号報告　関連団体での活動

1. 一般社団法人日本発達障害ネットワーク（JDDnet）

2023年秋以降の活動報告があった。その他、JDDnetから行政への提言に対する意見を求められた場合、理事として発言しているとの報告が近藤理事長よりあった。

1. 一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会

　2023年秋以降の活動報告があった。2023年12月27日に本会より推薦したガイダンスカウンセラー申請者11名全員の合格通知が発出された。また、「國分康孝スクールカウンセリング賞」に荘厳元幹事長を推挙した。

1. 「教育・発達」心理資格連絡協議会

2023年秋以降の活動報告があった。

2024年度社員総会は2024年6月23日（日）に対面にて開催、終了後理事会を開催予定である。

決算報告書承認の理事会は5月頃メール審議にて行う予定との説明があった。

議長は、議事終了の旨を告げ、16時00分　2023年度第3回理事会を閉会した。

議事録署名人

　　代表理事　近藤清美　㊞

　　代表理事　東敦子　　㊞

　　代表理事　尾崎康子　㊞

　　監事　滝澤真毅　　　㊞

配布資料

資料①　2024年度活動計画

資料②　2024年度予算

資料③　実践研究誌編集委員会規程

資料④　テーマ別研究会

資料⑤　リーフレット・パンフ

資料⑥　新委員（研修委員会）

資料⑦　賛助会員の入会について

資料⑧　前回以降の執行部の活動報告

資料⑨　前回以降の研修会報告

資料⑩　事務局次長体制

資料⑪　つながりグループリスト

資料⑫　会計委員会報告

資料⑬　危機支援委員会からの提案

資料⑭　研修委員会　研修体系

資料⑮　合同災害支援本部研修会企画書

資料⑯　関連団体報告

以上